

## 美術館評価とは

美術館が当該美術館の運営の状況について評価を行うとともに、その結果に基づき美術館の運営の改善を図るために必要な措置を講ずるよう努めるものです。

栃木県立美術館では、美術館評価の実施に向け検討・準備を進め、平成 27 年度実績の評価については試行的に実施し、平成 28 年度実績の評価から本格実施に移行しました。

## 評価の方法

当館による自己評価と栃木県立美術館評議員会による外部評価があります。

- ・自己評価は、目標の達成状況について定量的評価及び定性的評価を行うものです。
- ・外部評価は、自己評価結果の妥当性を検証し、今後のあり方に関し助言を行うものです。

1 定量的評価

達成度 A : 100% B : 99~70% C : 70%未満

項目		評価点	目標値 a	達成度 (b/a) %	評価	備考
			達成値 b			
1 調査研究関係	①	研究公開と 社会貢献回数	40	97.5%	B	
			39			
2 収集・保存関係	②	収集作品件数	19	484.2%	A	
			92			
	③	収集作品の貸出点数	70	152.9%	A	
			107			
3 展覧会関係	④	企画展開催回数	4	100.0%	A	
			4			
	⑤	企画展関連イベント回数	20	90.0%	B	
			18			
⑥	常設展展示替回数	4	100.0%	A		
		4				
⑦	アートリンク実施回数	2	100.0%	A		
		2				
4 普及教育関係	⑧	アートクルーズ来館学校 数	20	65.0%	C	
			13			
	⑨	イベント開催回数	12	125.0%	A	毎月1回以上
			15			
⑩	県教委・あーとネット等教育 関係団体との会議	3	100.0%	A		
		3				
5 施設設備関係	⑪	利便性向上等のための改 善箇所数	2	100.0%	A	
6 新たな取組関係	⑫	新規に取組んだ事業数	1	100.0%	A	
			1			
	⑬	ボランティア増加人数	10	100.0%	A	
			10			
7 広報関係	⑭	収集作品情報の新規提供 数	12	141.7%	A	毎月1回以上
			17			
	⑮	ホームページアクセス件 数	200,000	225.5%	A	
			450,923			
⑯	SNSによる情報提供回数	60	355.0%	A	毎週1回以上	
		213				
⑰	年度及び企画展毎の広報 会議回数	5	80.0%	B		
		4				
8 入館者数関係	⑱	5カ年間の入館者数	275,000	71.8%	B	企画展及び常 設展の観覧者 数合計
		(単年度目安)	55,000			
			39,512			
9 友の会・ショップ・レストラン 関係	⑲	友の会・ショップとの連 絡会議回数	2	150.0%	A	
			3			
	⑳	レストラン企画関連ラン チ提供回数	4	125.0%	A	
			5			

## 2 定性的評価

達成度 A : 91%以上 B : 90~70% C : 70%未満

評価項目 (チェック項目数)	チェック項目数×3 (a)	達成度 (b/a) %	評価	備考
	◎×3+○×2+△×1 (b)			
1 館運営全般 (9)	27	96.3%	A	
	26			
2 調査研究関係 (5)	15	100.0%	A	
	15			
3 収集保存関係 (7)	21	90.5%	B	
	19			
4 展覧会関係 (9)	27	92.6%	A	
	25			
5 普及教育関係 (10)	30	100.0%	A	
	30			
6 施設管理 (5)	15	93.3%	A	
	14			
7 中核機能関係 (6)	18	94.4%	A	
	17			
8 新たな取組関係 (6)	18	88.9%	B	
	16			
9 広報関係等 (7)	21	90.5%	B	
	19			
10 友の会関係等 (6)	18	94.4%	A	
	17			

### 定量的評価

定量的評価は、評価項目ごとに近年の実績の平均的数値等を踏まえて目標値を設定し、目標値に対する当該年度の実績値の割合（達成度）で評価したものである。

A : 達成度 100%以上、B : 達成度 99~70%、C : 達成度 70%未満

### 定性的評価

定性的評価は、評価項目（チェック項目）ごとに館員がその意識や姿勢等を自己評価し、その評価を、担当課長→副館長→館長の順に検討した上で最終評価としたものを点数化し、各項目の満点数に対する当該年度の得点数の割合で評価したものである。

A : 達成度 91%以上、B : 達成度 90~70%、C : 達成度 70%未満

〔◎ : 十分達成できた（3点）、○ : 概ね達成できた（2点）、△ : 達成不十分（1点）〕

### 3 評価結果一覧

区分	A評価	B評価	C評価
定量的評価項目 (20)	15 項目	4 項目	1 項目
定性的評価項目 (10)	7 項目	3 項目	項目

### 4 新たに取り組んだ事業等、改善した事業等

概 要	<p>① あーとネットとちぎ事業</p> <p>作品鑑賞と言語活動の結びつきを狙いとし、「あーとネット・とちぎ」に参加する県内の普及担当学芸員や美術科教員とともに「ビンゴ・ワークシート」を作成した。現場の声を取り入れるため、当館に来館した学校の団体対応や教員研修時にモニタリングを重ね(約 15 回)、展覧会でも学校の授業でも使用可能な汎用性のある形とした。</p>
成 果	<p>「ビンゴ・ワークシート」を使用することで、遊び感覚で作品を探しているうちに展示作品を隈なく見ることができた。また、書き込んだ内容の発表を通して同じ作品でも人によってさまざまな感じ方があることを知り、参加者同士の意見の共有、他者理解にまで発展させることができた。ワークシートは今後の団体対応に使用するほか、PDF データを「あーとネット・とちぎ」ウェブサイトに掲載し、他館や学校等でも自由に使えるようにする予定。</p>

## 5 自己評価総括

評 価	<p><b>(1) 定量的評価</b></p> <p>◎ 全体の 75%にあたる 15 項目がA評価となったが、「企画展関連イベント回数」など 4項目がB評価に、「アートクルーズ来館学校数」はC評価にとどまる結果となった。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 特に「企画展関連イベント回数」及び「入館者数」については、新型コロナウイルス感染症拡大防止のために実施した休館や県外への移動自粛等の影響により、実施回数や入館者数等が減少し、目標値を下回る結果となった。 今後、感染症対策を施しつつ、適切な展覧会運営を図っていきたい。</li><li>・ 「アートクルーズ来館学校数」は 13 校で目標値の 65%であった。前年度は 8 校で目標値の 40%であったことから、令和元年度から教育委員会の協力を得て募集を前倒しし、より多くの学校に行事に組み込んでもらえるようにした。 なお、自らバス等を準備し、授業や部活動の一環として来館する学校等もあり、学校教育に果たす役割には大きなものがある。</li></ul> <p>◎ 引き続き順調に推移している項目は、「ホームページアクセス件数」である。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 「ホームページアクセス件数」は 450,923 件で、平成 30 年度 (375,481 件) 比では 120%増であり、目標値 200,000 件に対し 225.5%の実績であった。 また、フェイスブック等 SNS も順調にファンが増加している。 今後も魅力あるホームページにしていくとともに、積極的な情報発信に努めていきたい。</li></ul> <p><b>(2) 定性的評価</b></p> <p>◎ A評価が 7 件、B評価が 3 件で、H30 年度と比較して 2 項目が A 評価となった。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 新たに A 評価となったのは「展覧会関係」については、東京オリンピック・パラリンピックの開催により、世界中の人々が日本を訪れることを念頭に、世界各国の絵画や版画等の名品・珍品を展示する令和 2 年度第 1 回企画展「親子でみる世界の美術」や、本県の四季折々の風景を觀賞していただく第 2 回企画展「45 分で栃木を一周」の企画構想に力を注いだことによるものです。</li></ul> <p>◎ チェック項目の細目で大幅に改善されたのは、普及教育区分の「県教育委員会所管課との意見交換」である。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 教育委員会事務局との調整により、令和元年度においては、教育委員会委員との意見交換会が実施できた。今後とも定期的に行えるよう、教育委員会との連絡調整を密にしていきたい。</li></ul>
--------	--

	<p><b>【評価総括】</b></p> <p>令和元年度も、前年度の定量的評価・定性的評価において不十分であった項目について、それぞれ達成値の改善達成に向けて取り組んだ。</p> <p>しかし、本県を直撃した大型台風や、新型コロナウイルス感染症の影響は大きく、入館者数等目標値を大きく下回った項目や、引き続き対応の検討を進めるべき課題もあるが、限られた財源の中で意欲的に事業に取り組み、幅広いファン獲得に向けて努力した。</p> <p>また、老朽化した施設・設備の計画的な改修など美術館のみでは対応できない大きな課題については、主管課である県民文化課等と協議・連携しながら検討及び対応を進めた。</p> <p>これらを総合的に勘案すると概ね適正な運営であった。</p>
<p>課 題</p>	<p><b>【今後の主な課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 開館 50 周年記念事業開催に向けた取組</li> <li>◆ 学校との連携の強化</li> <li>◆ ボランティアの効果的な活用</li> <li>◆ 収蔵スペースの確保</li> <li>◆ 老朽化した施設・設備等の計画的整備</li> </ul>
<p>対 応 の 方 向</p>	<p><b>【対応の方向】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 開館 50 周年を迎えられたことに対する県民への感謝の意を込めて、質の高い、そして多くの県民に感動を与えることができる、親しみやすい記念展の企画立案に努める。また、SNS の効果的な活用や広報対象を絞り込んだ戦略的な広報など情報発信力を強化し、入館者数のなお一層の増加に努めていく。</li> <li>■ 市町や学校教員へ美術館事業を積極的に情報提供し、具体的な連携策について検討を進める。</li> <li>■ ボランティアの意向や他館の状況などを踏まえ、効果的なボランティア活動を進める。</li> <li>■ 収蔵庫の保管棚の増設など、収蔵庫における環境改善にさらに努める。</li> <li>■ 老朽化した施設・設備を適時・適切に改修し、美術館としての機能維持に努める。</li> </ul>

## 6 外部評価

意見等	<p>令和元(2019)年度の美術館の運営状況については、概ね適正に運営されたと判断し、次の項目を意見とする。</p> <p>1 企画展の開催について</p> <p>昨年度は、菊川京三展や山田耕筰展など良く研究されたユニークなものがあったと思う。また、歴史的なものから現代のものまで幅広く扱われていた。</p> <p>2020年度を見ると、バラエティには富んではいるが、最新のものが減っているようなので、工夫が必要である。</p> <p>2 コロナ禍における美術教育について</p> <p>コロナの影響もあり学校でもネット環境が整いつつある。ギガスクール構想で今年度中に1人1台タブレットが整備されることになった。本来なら、子どもたちに実際に美術館に来て見てもらいたいところだが、オンラインで美術館見学ができるとかネットを通じて美術に触れることができる対応を検討すべきである。</p> <p>3 コロナ禍における公立美術館のあり方について</p> <p>コロナ禍の中、このあとどうなるか分からない状況で、公立美術館のあり方について、来年、再来年も見据えて検討していくべきである。</p>
-----	---

定性的評価項目チェックリスト

◎：十分、○：概ねできた、△：不十分

区分	チェック項目	達成度
1 館運営全般	1 館と本庁主管課との連絡調整を十分に行ったか	◎
	2 定例の課長会議及び学芸会議は開催できたか	◎
	3 突発的な事案に関して、課長会議等は十分に開催できたか	◎
	4 館長、課長等と館員のコミュニケーションは良好だったか	◎
	5 本庁主管課及び全館員が承知する中期・年度計画は策定したか	○
	6 自己評価は実施したか	◎
	7 外部評価は実施したか	◎
	8 栃木県立美術館評議員会の意見等は全館員に周知したか	◎
	9 年報やホームページ等で館の運営状況を公表したか	◎
2 調査研究	1 調査研究内容について学芸課内で情報共有しているか	◎
	2 調査研究予算の獲得について努力をしたか	◎
	3 各学芸員は幅広く見聞を広めているか	◎
	4 県内の現役作家等についての研究にも積極的に対応したか	◎
	5 我が国及び世界の現在の美術状況についても研究しているか	◎
3 収集保存	1 収集方針に沿った収集を行ったか	◎
	2 作品の保存状況等について定期的に点検したか	○
	3 収蔵庫等の温湿度管理は適正に行ったか	○
	4 収集作品の修復は計画的に行ったか	◎
	5 収集作品の他館及び県内市町への貸出に前向きに対応したか	◎
	6 寄贈者に対して適切な対応を実践したか	◎
	7 収集に関する情報収集は定期的に行っているか	◎
4 展覧会	1 企画展・常設展は、計画に近い内容で開催できたか	◎
	2 出品リストは作成・配付したか	◎
	3 音声ガイドは順調に作成・貸出しできたか	◎
	4 図録又は解説のための小冊子等を作成したか	○
	5 展示状況について定期的に点検したか	◎
	6 入館者の鑑賞状況等をチェックし交流等を図ったか	◎
	7 入館者の満足度等をアンケート等で把握し、その結果を検証したか	○
	8 企画展の自己評価を行い、検証をしたか	◎
	9 オリパラを念頭に置いた展覧会構想の検討を意識していたか	◎



5 普及教育	1	イベントの定期的な開催について努力したか	◎
	2	参加者数は満足のいくものだったか	◎
	3	参加者の満足度等をアンケート等で把握し、その結果を検証したか	◎
	4	各事業では講師等の協力を十分に得ることができたか	◎
	5	団体利用の際にオリエンテーションの実施等に積極的に努めたか	◎
	6	県教育委員会所管課との意見交換等は効果的に実施できたか	◎
	7	学校との連携をより深めることができたか	◎
	8	学校の教員向けのイベントは開催したか	◎
	9	障害者の美術鑑賞の研究及び情報収集に努めたか	◎
	10	各事業の振り返りを実施したか	◎
6 施設管理	1	施設の老朽化対策等について改修計画を共有しているか	○
	2	施設設備の危険箇所等の有無について定期的なチェックはしたか	◎
	3	館を挙げての防災訓練を実施したか	◎
	4	施設面での国際化への対応について検討しているか	◎
	5	不慮の事故等に備えての保険には通年で加入したか	◎
7 中核的機能	1	県内の他の美術館・博物館等との積極的な交流を図ったか	◎
	2	市町美術館等の求めに応じた、適切で親身な助言等はできたか	◎
	3	県内外の学会、研究会、委員会等に積極的に貢献したか	◎
	4	栃木県博物館協会の事業等に積極的に貢献したか	○
	5	各種団体等の協力要請に、前向きな対応姿勢を示せたか	◎
	6	学芸員実習生の積極的な受入と適切な指導は図れたか	◎
8 新たな取組	1	館としての新たな取組の模索を常に意識していたか	◎
	2	外部団体等との連携の模索を常に意識していたか	◎
	3	連携による事業化を念頭に外部団体等と接触したか	◎
	4	ボランティアの活用は順調に推移したか	○
	5	ボランティアとの関係性の向上のための積極的な交流に努めたか	○
	6	他館における新たな取組等について情報収集に努めたか	◎
9 広報関係等	1	企画展毎の広報会議の早期開催について努力したか	◎
	2	広報体制を確立し、各自の役割分担が明確になっているか	◎
	3	ホームページ上で、必要に応じたタイムリーな情報提供ができたか	◎
	4	フェイスブック、ツイッターの活用は十分だったか	◎
	5	広報対象毎に戦略的に効果的な広報を行ったか	○
	6	広報は衆目を集めるような魅力的なものにする配慮をしたか	○
	7	報道関係者との交流には積極的に努めたか	◎

10 友 の 会 等	1	友の会への支援（会員増への協力など）を常に意識していたか	◎
	2	友の会とのコミュニケーションに努めたか	◎
	3	ショップの魅力向上策について検討したか	◎
	4	ショップ運営に関して進んで協力したか	◎
	5	レストランの利用促進に協力したか	○
	6	レストランの企画展関連メニュー等に関してともに検討したか	◎